

自己評価報告書

平成 23 年 3 月 31 日現在

機関番号：31311

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：平成 20 年度～平成 23 年度

課題番号：20530897

研究課題名（和文） 乳幼児健診時の虐待予兆観察記録票と質問票の開発

研究課題名（英文） Development tables that related to child-abuse signs and the questionnaires associated with the baby health examination

研究代表者 岩倉 政城

（IWAKURA MASAKI）

尚絅学院大学・総合人間科学部・教授

研究者番号：90005067

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・特別支援教育

キーワード：育児困難・虐待、乳幼児健診、母子交流

1. 研究計画の概要

虐待防止が児童相談所を軸に展開しているが乳児や低年齢幼児への虐待は顕在化しにくく、一方で虐待死が4歳児までに8割を超すことから現状の虐待防止策に根本的な見直しが必要となっている。この現状に歯止めをかける方策の開発を目指した。日本の乳幼児対象施策のうち母子保健事業に着目し、従来から研究代表者が母子保健事業で関わってきた二本松市との間で協力が成立し、保健師が中心になって行っているこの事業を虐待の防止や虐待の可能性のある保護者の早期発見につなげる方法として、妊娠した母が役場を訪れる母子手帳交付時に着目し、この機会に質問票記入を依頼し、虐待の予兆を検出する事を目指した。数回の現場スタッフとの協議の末、母とその夫（パートナー）についても養育意欲や配偶者との関係などについて別途に質問することで、予兆の検出がより可能になると判断し、妊婦用、パートナー用2種類の質問票を作成した。

2. 研究の進捗状況

現在回収しながら一次集計をしております中で母子手帳交付時「しつけのためなら子どもを叩いて良い」との肯定的な意見が半数以上を占め、それに父でも母でも同様の傾向であることが判明した。また経時的な観察か

らこの肯定的な意見が出産後には変化し、やや叩くことを控える傾向が見られた。また母とそのパートナー間の関係が子育てにつれて変化していくことが観察された。

また、育児が始まると母親が育児相談できる相手を見つけるのが困難になる社会的孤立の傾向がみられ、公的な子育て支援の働きかけの必要性が見て取れた。

3. 現在までの達成度

一次集計表を経時的な変化が分かる時系列集計になるよう票の転換作業を進行中である。これに母とパートナー分を対にして解析するために複雑な集計表作成に入っている。部分的なクロス集計を実施し、幾つかの所見を得ている。

4. 今後の研究の推進方策

統計ソフト spss を用いて全体の時系列分析と因子分析を行い虐待発生の要因を洗い出す予定である。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計3件)

1.岩倉政城、嶋原ヨシ子、育児における抱っことおんぶの再評価、第61回日本保育学会平成20年5月、

2.岩倉政城、小松秀茂、嶋原ヨシ子、虐待予兆早期発見システムの開発：母子手帳交付時質問票の検討、第62回日本保育学会、平成21年5月

3.岩倉政城、安田勉、嶋原ヨシ子、自治体母子保健事業に連動した虐待予兆の検出質問票の解析

〔図書〕(計1件)

宮本信也、小野里美帆編著、「保育に生かす精神保健」、岩倉政城、1章3節：心の健康に関する要因、3章：乳児期の精神保健、建帛社、平成22年3月

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

なし